

| 科目名<br>Course Name  |                                   | 開講年次                     | 開講学期           | 曜日・時限              |
|---|-----------------------------------|--------------------------|----------------|--------------------|
| 生活支援技術Ⅶ<br>Independent Living Skills Ⅶ  |                                   | 2年                       | 前期             | 別途、時間割参照           |
| 単位数   | 授業の形態                             | 授業の性格                    |                | 履修上の制限             |
| 1単位   | 演習                                | 選択                       | (介護福祉士養成課程 必修) | 介護福祉士養成課程の2年生のみ履修可 |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目  |                                   |                          |                |                    |
| 特になし  |                                   |                          |                |                    |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目  |                                   |                          |                |                    |
| 特になし  |                                   |                          |                |                    |
| 担当者に関する情報   |                                   |                          |                |                    |
| 氏名  | 研究室の場所                            | オフィスアワー                  |                | 電話番号・メールアドレス       |
| 大熊 信成   | 福祉棟3階                             | 火・水・木・金の9時から16時(授業時間を除く) |                | 授業中に指示します          |
| 授業の概要   |                                   |                          |                |                    |
| 精神障害および知的障害の原因疾患や特性、個々の生活障害を理解し、その介護・援助の視点と留意点について学ぶ。また、保健・医療と福祉関係者との連携のあり方についても学ぶ。そして、メンタルヘルスの概念を理解し、心の健康について考える機会とする。 |                                   |                          |                |                    |
| 授業の目標   |                                   |                          |                |                    |
| ①精神障害および知的障害の特性がわかり、介護・援助の視点を説明できるようにする。<br>②メンタルヘルスの概念を理解し、心の健康を保つ工夫を考えることができるようにする。                                   |                                   |                          |                |                    |
| 授業の方法   |                                   |                          |                |                    |
| 演習科目であるが、講義が中心となる形式である。精神障害者の適切な把握のために、精神障害者施設関係者の講話を取り入れ、ディスカッションの機会とする。   |                                   |                          |                |                    |
| 学習の成果(学習成果)   |                                   |                          |                |                    |
| ①精神障害および知的障害の障害特性から、介護に必要な視点を説明することができる。<br>②自己の心の健康について考える機会とすることができる。   |                                   |                          |                |                    |
| 授業のスケジュールと内容  |                                   |                          |                |                    |
| 第1回目  | ガイダンス(シラバスにそって) 既習学習「障害の理解Ⅰ・Ⅱ」の復習 |                          |                |                    |
| 第2回目  | 精神疾患の基礎知識① 統合失調症                  |                          |                |                    |
| 第3回目  | 精神疾患の基礎知識② 気分障害(躁うつ病を中心に)         |                          |                |                    |
| 第4回目  | 精神疾患の基礎知識② 薬物依存症(アルコール依存症を中心に)    |                          |                |                    |
| 第5回目  | 精神障害者の特徴と介護・援助の視点① 統合失調症を中心に      |                          |                |                    |
| 第6回目  | 精神障害者の特徴と介護・援助の視点② 気分障害を中心に       |                          |                |                    |

|   |  |  |
|---|--|--|
| 第7回目  | 精神障害者の地域生活、医療の現状、<br>地域生活に必要な条件精神障害者の地域生活を支える支援と制度、保健・医療・福祉関係者との連携 |  |
| 第8回目  | 精神障害者の理解について（レポート1 提出：第9回目）  |  |
| 第9回目  | 「メンタルヘルス」課題提示(レポート2 提出：第13回目)<br>知的障害の概念とその理解および捉え方、ノーマライゼーションの概念  |  |
| 第10回目   | 知的障害の原因と特徴   |  |
| 第11回目   | 知的障害児（乳幼児期・児童期）の特徴と介護・援助の視点  |  |
| 第12回目   | 知的障害者（成人期・高齢期）の特徴と介護・援助の視点   |  |
| 第13回目   | 地域生活と社会参加 必要な条件と支え   |  |
| 第14回目   | 知的障害者の理解 事例紹介または視聴覚教材  |  |
| 第15回目   | 障害を持つ人の加齢と生活障害、まとめ   |  |
| 事前・事後学習   | ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。          |  |
| 成績評価の方法と基準  |  |  |
|   | 評価の領域  | 割合   |
|   |  | 評価の基準  |
| 授業参加態度  | 20%  | 配布資料をもとに自主的にメモしている。提示した資料やテキストは必ず持参している。   |
| レポート  | 30%  | 1：講話後のレポート S：感想文にとどまらず学びを明確に記述している。（10%）<br>2：メンタルヘルスのレポート S：社会人となってからどのように向き合うかを考え、具体的に記述している。（20%） |
| 調査報告書   |  |  |
| 小テスト  |  |  |
| 試験  | 50%  | 介護福祉士国家試験（筆記試験）に準じた選択形式の筆記試験である。   |
| 発表内容（態度含む）  |  |  |
| その他   |  |  |
| 教科書と参考図書  |  |  |
| 新・介護福祉士養成講座 第8巻「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版  |  |  |
| 履修上の留意点・ルール   |  |  |
| <p>●実務経験（職種：児童指導員・生活指導員（障害児・者に係わる業務） 職歴：通算6年）<br/> 心の健康について、ライフサイクルを通して考えていく機会としてほしい。一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。</p> |  |  |